

サポーターさん、学校、地域の人々の思いと努力をつなぐ ～循環・持続する取組を求めて～

栗東市	活動名：栗東中学校地域学校協働本部	栗東中学校	学校運営協議会： <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに■印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：1人 ボランティア登録数：34人 <input type="checkbox"/> 学習支援（授業補助、学力補充等） <input checked="" type="checkbox"/> 図書ボランティア（読書活動支援 <input checked="" type="checkbox"/> 図書室環境整備） <input checked="" type="checkbox"/> 学校行事支援 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの安全確保、見守り <input checked="" type="checkbox"/> 部活動支援 <input type="checkbox"/> 学校周辺環境整備 <input type="checkbox"/> 学びによるまちづくり <input type="checkbox"/> 地域行事への参加 <input type="checkbox"/> 地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育） <input type="checkbox"/> ボランティア・体験活動 <input type="checkbox"/> 郷土学習 <input type="checkbox"/> その他 []			

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）

学校・園 学校運営協議会 地域学校協働活動推進員等 行政 その他（ ）

■ 学校運営協議会で熟議された内容（地域学校協働活動に関わる内容等）

今年度10月より、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）への移行を完了し、当面、①学校経営の課題についての熟議・承認は学校運営協議会、学校と地域をつなぐソーシャルキャピタルの取組と方針立案は地域学校協働本部（「栗中サポーターズ・クラブ」）とすみ分けを行った。

■ 地域と学校が協働した活動（特徴的な活動）

地域ボランティア「栗中サポーター」が生徒会エコロジー委員や有志生徒とで、里芋、さつまいも、大根を育てた。その過程では、サポーターが近隣から馬糞を調達、耕すなど下準備をしたうえで、生徒たちと一緒に苗を植えた。今年の猛暑で収穫自体は、昨年より大幅減となったが、ここ数年のコロナ禍で土に触れたことさえない子どもたちにとっては、有意義な体験となった。



【 野菜の販売会 】

そこで育った野菜の一部は、販売会を設けて地域の人々に買っていただき、収益で子どもたちの自習コーナーの書籍を購入した。自習コーナーにあるサポーターの手作りの本棚はまたにぎやかになり、楽しみにしていた子どもたちが集まった。

残りの野菜は、10月に実施している2年職業体験の一環で生徒たちが起業（スタートアップ）した地元産物品販売店舗「たまりば」で、目玉商品として販売した。たくさんの地域の方が来店し、大盛況の中で完売した。その収益を子どもたちは、「パレスチナのガザ地区で続く戦闘で被害を受けた子どもたちに役立ててほしい」と、日本赤十字社に寄付した。

■ 実施に当たっての工夫

地域の方からの馬糞の提供や、サポーターの野菜作りのスキルを得て、子どもたちが豊かな体験をし、その成果物である野菜を地域の人々が購入し、その収益を子どもたちの自習コーナーの書籍購入や寄付に活用する…こうして事業に関わる人々の思いと努力をつなぐことをねらいとして活動を構想してきた。また、作業や分担を適切に区切ることで、気軽に幅広い方が協力できる取組にしてきた。さらには活動への理解と参加・応援いただける地域の方を増やすために、学校だよりとコラボした「サポーター通信」を全校保護者と地域の自治会役員さんに毎月配布した。

■ 事業の成果

野菜作りでは、参加した生徒が豊かな表情で作業に取り組み、サポーターさんからは、「元気がもらえる」と言っていた。自分たちで野菜を作り、収益を得、本を購入し、読書を楽しむ…という流れの中で、関わる人々が興味をもって楽しみ、やりがいを得たこと。そうした思いや努力の循環を少しでも感じてもらったことは大きかった。

また、2年職業体験と収穫がうまくリンクし、育てた野菜を起業体験担当生徒に販売してもらい、その収益を寄付という形で社会に還元できた意義も大きかった。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

「栗中サポーター」活動に参加する方々、特に発足当時から登録者の高齢化が大きな課題である。昨年は、新たな会員として数名登録いただいたが、今後も引き続き幅広い世代の方に登録を呼びかけたい。また、今年のような記録的な猛暑がもたらす被害とそうした気候変動に耐える栽培スキルを持ち合わせていないことから収穫が減ることも、循環する活動を作るうえでは大きな悩みである。

■ その他（学校運営協議会との協働等）

市教育委員会規則の策定を受け、今年度10月より学校運営協議会制度を導入した。導入に至るまで、教職大学院研修派遣中の職員の助言を受けて、学校運営協議会と地域学校協働本部（「栗中サポーターズ・クラブ」）の連携・接続について検討した結果、地域学校協働本部の代表者を学校運営協議会に含みつつ、互いの強みを生かす「すみ分け」を取り入れるに至った。

■ 協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）

校長 教頭 地域連携担当教職員 その他（生徒指導主事）

報告書記入者（地域連携担当教員 地域学校協働活動推進員）